



域ごとに市民や自治体、他企業と一緒に進めてきた成果です。エコ・ファーストの約束では「レジ袋辞退率60%」でしたが、すでに70%を超えています。

それから、店舗に入ってくる商品の段ボールを通い箱にリユースする仕組みによって、段ボール箱を前年比10%削減できました。まずは資源の節約からです。

●百瀬 こうした容器包装の削減も、商品由来のCO₂を減らすことにつながるのですね。

商品そのものが環境に配慮された「eco!on」も商品開発・販売促進が進んできています(p31)。

●前村 専門家や学識経験者による第三者審査をクリアすることがなかなか難しく、品目数が増えないのがジレンマですが、環境配慮の効果を検証することも大切です。

今後も商品開発・販売拡大をしていきます。現在トライしているのは、地元で栽培した地産地消の野菜や、食品リサイクルループで栽培したエコ野菜を「eco!on」として販売していくことです。

どんな土・水・肥料で栽培されたか、農薬をできるだけ使わないことなどを表示して、安心して買っていただける、そして生産者の顔が見えるような野菜を販売していきます。

テーブルの上の生物多様性

●百瀬 2010年10月には名古屋市で生物多様性についての国際会議COP10が開催されます。私たちが食べている食品は、みんな命でしょう。ユニーでは身近なところから生物多様性を知っていただくために、「テーブルの上の生物多様性」をテーマにキャンペーンを行っています。

●前村 食べ物が将来にわたり安全に供給されないと、人間にとって大変なことです。さまざまな生き物にとって環境保全や種の保存が人間によって脅かされては大変です。ユニーは、自然と共生し環境保全に努めて生産されたり捕獲された食べ物を推奨し、それらを買ってくださるお客様にも「生物多様性に貢献している」という意識を高めていただく活動を店舗で実施しています。

代表的な例がサステナブルコーヒーです。コーヒーは日本では生産されていません。

遠い生産地で、環境保全や生産者に配慮して作られたコーヒーを買って飲んでいただくことが、生産地を守り、そこで生きている命を守ることに貢献できるのです。

●百瀬 環境に配慮したライフスタイルを実行しようとしたときに「そうだアピタ・ピアゴに行けばきっとあるよね」って、そう思っていたら嬉しいですね。

これからの持続可能なライフスタイルに役

に立てる商品やサービスを実現していきます。

人と環境にやさしいエコストア

●百瀬 今年、埼玉県にオープンした「ピオニウォーク東松山」はモール型のエコストアです。

●前村 モール型のショッピングセンターは、規模が大きくモールゾーンが吹き抜けになっていて、開放感はとてもよいのですが、空調や照明などでエネルギーをたくさん使います。

そこで、エネルギーをできるだけ使わない、電気式ヒートポンプという空調設備を導入し、通路やトイレの照明にはLEDを採用しています。また駐車場には風力太陽光発電の外灯を設置するなど、省エネで高効率なCO₂を出さないエコストアです。

●百瀬 それに加えて、店舗から出る食品残さを堆肥にして野菜を栽培する取り組みを進めています。

また2010年秋に名古屋市にオープンする「ヒルズウォーク徳重ガーデンズ」は既存店舗よりCO₂を30%発生抑制する予定です。

これらのエコストアは、本当にCO₂の削減を果たしているかを検証します。

●前村 楽しみです。

建物設備が環境に負荷をかけないだけでなく、販売する商品やサービスのレベルが他より優れているのがエコストアの良いところだと自負しています。

新規開店店舗だけではなく、すでに建っている店舗にも、環境負荷低減の効果のある設備を順次導入していきます。

●百瀬 エコストアは環境にやさしいだけではなく、人にもやさしい店舗づくりを心がけています。

●前村 日本は少子高齢化が進んでいますが、来店されるお客様のどなたでも、楽しく快適にショッピングができるような設備やサービスを心がけています。

●百瀬 そうですね。ショッピングの場ということだけではなく、お客様から頼りにされる地域のコミュニティセンターとしての役割を果たしたいと願っています。

例えば、子育て支援や高齢者の方のサポート体制などを、地域と一緒に進めています。

●前村 エコストア第一号の「リーフウォーク稲沢」に、ベビーカーを押す若いママたちの来店が多いのはそういった努力の成果ではないかと思っています。これからは人に対する環境配慮という視点で「くつろぎ・安らぎ・癒し」を具体的に実現し、ユニーは自然環境にも人にもやさしいお店だとアピールしたいですね。

●百瀬 実は昨年から認知症の方をサポート

するための体制づくりに取り組んでいます。地元のNPOや大学と協働で、認知症の方や家族にも安心して買い物を楽しんでもらうように、まずは従業員が認知症について理解することから始めています。

●前村 私にも80歳の父がいるので、身につまされます。

●百瀬 それから、「リデザインプロジェクト」(p46)という、使用されなかった材料(主に布地)を生産者から寄付していただき、授産所(知的障がい者の作業所)で製造した製品をユニーの店舗で販売する取り組みをしています。ただ「リサイクル」とか「チャリティ」というだけではお客様に満足していただけないから、デザインや機能性を持たせるための支援として、愛知県周辺のデザインを学んでいる学生を対象に「デザインコンテスト」を開きました。そこで入賞した作品をユニーの担当バイヤーがサポートすることで商品化を進めています。捨てられていた布地などを再生利用することは環境にもやさしい企画です。

●前村 社会貢献が募金活動だと勘違いしないで、ユニーの本業である小売の現場でお役に立つことはとても有意義なことですね。

●百瀬 最後に、ユニーでは持続可能な社会を築いていく子供達に、環境学習や農身体験、自然探検などを年50回以上実施しています。ユニーの環境社会貢献のキーワードは「次世代へつなぐ、命の環」です。未来の子供達のために、今私たちは何をしなければよいのかを、常に考え行動していきたいと思います。

●前村 大型ショッピングモールであれコンパクトな食品スーパーであれ、そこで働く従業員や関係する人たちの心構えによって、人にも環境にもやさしいエコストアが実現できるのです。

来年は創業100周年を迎えます。身近なところから、ぜひとも行動に移していきます。



代表取締役社長 前村哲路(左)、
環境社会貢献部長 百瀬則子(右)